

心身症・神経症等を伴う不登校児の 心理・行動特性及び指導法に関する研究

(課題番号 14510182)

平成14年度～平成16年度

科学研究費補助金(基盤研究(C) (2))

研究成果報告書

平成17年3月

研究代表者 武 田 鉄 郎
(独立行政法人国立特殊教育総合研究所)

は じ め に

我が国の公立小・中学校において、平成13年度に30日以上欠席した不登校児童生徒数が138,722人で、そのうち、登校の意志はあるが不安が強く身体の不調を訴え、登校できない、いわゆる心身症・神経症タイプの児童生徒数の割合は約4分の1であると報告されている。

また、奥野ら(2000)が行った調査研究では、心身症等の心の問題による不定愁訴を訴える子どもの数は、通常の医療機関を受診する者の約6%,学校の保健室利用の児童生徒のうち約10%を占めていることが明らかにされた。

病弱養護学校や院内学級においても入院している生徒のうち不登校の経験をもつ生徒が、高等部で30.2%,中学部で32%を占めるに至って深刻な教育問題になっている。

心身症・神経症等に関する研究は国内外に多く、実用主義的な米国にあってはハイリスク児や地域住民に介入する研究プログラムが実施され、実績を上げている。しかし、我が国においては、心身症・神経症等の学齢児に対する保護者、学校、医療、本人の多面的な評価とその実態把握、それに基づく具体的な対応策が各専門家の連携のもとで組織的に行われていないのが現状である。

心身症・神経症等の病像の範囲は極めて広く、その病態の成り立ちには、子どもの身体的、性格的要因、家庭環境、対人関係(家庭、学校、地域社会)等が複雑に重なり合って生じた個人の生体リズムの変調が深くかかわっている。しかし、多因子が複雑に絡み合っているにもかかわらず、同時期に親、教師、本人の三者の立場からの多面的な評価と、あわせて心理社会的要因による身体症状について検討されることはほとんどなかった。

第1章では、本研究の概要を述べ、第2章においては、心身症・神経症等の児童生徒の実態把握と教育的対応について文献研究、心身症に関する文献研究を行った。第3章においては、心身症・神経症等を伴う不登校児の心理・行動特性に関する研究として、米国T.M. Achenbachらが開発し、国際的に通用している子ども用の情緒や行動の包括的な質問紙〔親用のCBCL(=Child Behavior Checklist), 教師用のTRF(=Teacher's Report Form)と本人用のYSR(=Youth Self Report)〕を使用し、親、教師、本人の三者の立場から多面的に情緒や行動を評価し、プロフィールの特徴など情緒や行動の実態を明らかにすることを試みた。第4章では、心身症・神経症等の児童生徒の指導法について、また、第5章では、協力校・協力者と共同研究で事例研究を行った。重症なケースの事例研究をとおして、現状では行き詰まっている感の強い、心身症・神経症等で不登校状態の児童生徒の教育的支援の在り方を調査し、考察することは大きな意義があると考ええる。第6章では研究全体をまとめた。

病弱養護学校や院内学級を卒業した心身症・神経症等の不登校児の10年後の予後を見ると73%が「適応」又は「やや適応」を示し、英国においても同様な数値が出ている。しかし、その適応までの過程、あるいは病弱養護学校や院内学級での教育の役割については言及されていない。病弱養護学校は、病院が隣接し連携を取りやすい環境にあり、心身症・神経症等の児童生徒の実態把握と教育的支援をトータルに行うことが可能である。



この写真は、イタリアのボローニアにある S. Orsola 病院のドーラ・スカルポーニ氏が送ってくれた写真である。彼女は医師の資格を持ち、病棟内では心理カウンセラーの仕事をし、白血病等の小児がんや難病で苦しんでいる本人や家族の精神的なサポートをしている。この写真は世界の平和を願い送られてきたものであるとともに、病気で苦しんでいる本人、家族の心の平和を願い送られてきたものである。

また、イタリアの学校を訪れた時、一人の教師から次の言葉をプレゼントされた。それは「ハンディを含め、一人一人の違うことの価値を問い、大切にしていくことはすべての子供にとって富となる」である。心身症・神経症等で苦しんでいる児童生徒の中には人と比較して自分を否定的にとらえている者が多い。

この研究はまだ途上ではあるが、病弱養護学校に在籍している心身症・神経症等を伴う不登校児の心理・行動特性の一面を明らかにしてきた。これらの児童生徒を支援するために、本研究の成果が教育現場に少しでも役立つことができれば幸いである。

研究代表者 武 田 鉄 郎

目 次

研究組織，経費並びに研究成果

はじめに

第1章 研究の概要	----- 武田鉄郎 ----	1
第2章 心身症・神経症等に関する文献研究	----- 武田鉄郎 ----	2
I 心身症・神経症等の児童生徒の実態把握と教育的対応に関する文献研究	-- 武田鉄郎 ---	2
II 小児の心身症	----- 篁 倫子 ---	1 1
第3章 心身症・神経症等を伴う不登校児の心理・行動特性に関する研究	---- 武田鉄郎 ---	1 5
I はじめに	-----	1 5
II 研究方法	-----	1 5
III 研究結果	-----	1 5
IV まとめ	-----	3 2
第4章 心身症・神経症等の児童生徒の自立活動の指導法	----- 武田鉄郎・山本昌邦 ---	3 4
I はじめに	-----	3 4
II 自立活動の再構築	-----	3 5
III 個別の指導計画による実践	-----	3 6
IV 自立活動の評価の構造化	-----	3 8
第5章 事例研究	-----	4 2
事例1 一人一人に応じた支援の在り方を求めて		
－ CBCL 等の情緒と行動チェックリストをとおして－	-----	4 3
事例2 不安の高い生徒への指導に関する一考察	-----	5 1
事例3 生徒の心理ストレスからの解放と情緒の安定を図るための指導に関する考察		
－ 自立活動の工夫実践をとおして－	-----	5 6
事例4 不登校生徒の変容に効果を上げた「自立活動の指導」の検討	-----	6 1
第6章 まとめ	----- 武田鉄郎 ---	6 7
資料1 ASEBA に関して	-----	6 9
資料2 Achenbach の「子どもの行動チェックリスト TRF」(教師用)	-----	7 1

研 究 組 織

研究代表者

武田 鉄郎

独立行政法人国立特殊教育総合研究所・教育支援研究部・主任研究官

研究分担者

篁 倫子

独立行政法人国立特殊教育総合研究所・教育支援研究部・総括主任研究官(医療・病弱担当)

山本 昌邦

横浜国立大学・教育人間科学部・教授

研 究 経 費

平成 14 年度 1,600 千円

平成 15 年度 900 千円

平成 16 年度 600 千円

合 計 3,100 千円

研究成果の発表

武田鉄郎(2004)心身症・神経症等の児童生徒の実態と教育的対応．特殊教育学研究，42(2)159-165.

武田鉄郎(2004)心身症・神経症等を伴う不登校児の心理・行動特性に関する研究－TRF(= Teacher's Report Form)の結果分析を中心に－．日本特殊教育学会第42回大会発表論文集，574.

篁 倫子・武田鉄郎・海津亜希子・西牧謙吾(2004)病弱養護学校における心身症等の児童生徒の教育－「心身症など行動障害」に括られる児童生徒の実態と教育・心理的対応－．国立特殊教育総合研究所病弱教育研究部